



1363 4年 「秋の生き物の様子」10/15

- 夏のころより、秋の方が変わっています。温度、けしき、生き物の様子が分かりました。へチマは緑色から茶色になっていました。
- 秋になると景色が色とりどりになることがわかりました。山の色や葉の色はまだ変わってないけど変わったら観察します。メモを10個以上書けなかったの次は書きたいです。
- いっぱいメモが書けました。秋になると葉が赤くなるのすごいです。
- 季節が変わると、生き物のようすも変わるんだなと思いました。
- ★ 季節が変わると生き物の様子が変わります。だから風景が変わります。落ち葉や枯れ木、実や種で工作するのは楽しいですよ。下画像は、去年の四国中央市理科同好会で作った時計です。一昨年作った時計は、娘が「欲しい」というのであげました。

秋の葉と種・実で飾った時計



時計の一部を拡大



1364 「被災者を救済するための募金」

6年生の提案から募金が始まりました。「校長室便り」にあったように2016年の、熊本地震の時にも三島小学校で募金を行いました。地震により水道が壊れました。蛇口から水が出ません。2Lの水のペットボトルが各地から熊本に送られました。三島のフジに2Lの水のペットボトルがなくなったことを覚えています。

今度は水害です。しかし、浄水場が

壊れて水道水が使えない地域があります。壊れていなくても水に濡れて捨てるしかない大量の家具、使えなくなったや工場の機械、出荷できなくなった農産物があります。

* 三島小HPの理科レポートの更新が原因不明でできなくなっています。直り次第更新します。

1364 「被災者を救済するための募金」 画像：水没した千葉県佐倉市鹿川流域 10/26





1365 「被災地の被災者の気持ち」

2017/7.12 愛媛県 西予市野村町

台風と低気圧による大雨で、関東、特に千葉県あたりは3度の被害を受けました。1か月半の間に3度の被災。前の被災の復旧ができないのに、次が襲ってきました。



被災地の人々の気持ちを想像しよう。

・川が氾濫。

水が急にたくさん流れてくる。流れが速い。流されて危険だから家から出られない。車は水没して動かない。1階が水没、2階や屋根に逃げる。「水はいつになったらひくのか」と不安・恐怖で救助を待つ。

・水がひいた。

濡れた大量の家具は捨てる。運ぶにも自分の車は動かない。飛ばされた屋根の代わりに屋根に登ってブルーシートをかぶせる。床上にたまった泥を掻き出して捨てる。畳をのけて干す。床板をはがして数十cmの重い泥を袋に詰めて捨てる。全てボランティアが必要。

水道が止まっているので給水車の列に並ぶ。近くの店は水没。遠くに買い物に行きたいけど車が使えない。配給に頼る。停電しているので電灯もテレビも冷蔵庫もエアコンも使えない。

被災地では、こんな生活が終わることを、家具のゴミ出ししながら待つ生活が続きます。

1366 「畳職人の3度の水害」10/28

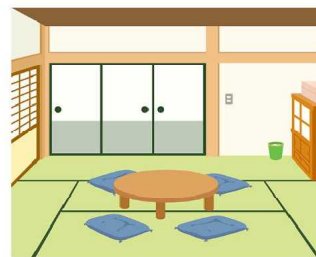
27日の朝のニュース。3度の水害を受けた畳職人の体験です。

1回目。工場の屋根の一部が飛ばされ、大雨で作っていた大量のたたみがぬれました。ぬれた畳はカビが生えるので捨てます。被災地からの注文にこたえるために、はがれた屋根にブルーシートをかぶせて、畳作りを再開します。

2回目。台風によりブルーシートが飛ばされました。ぬれた畳は捨てます。被災地からの注文に答えるために、畳作りを再開します。

3回目。大雨で工場が浸水。ぬれた畳は捨てます。「四畳半の部屋だけ復旧できたので、そこだけの畳がほしい。」という被災者のために、畳を車の乗せて避難。被災者に届けることができました。

和室には、たたみ。ここで心が安まる人のために続けられました。



★ 「作った苦勞がむだになっても、また作る。」

3度くり返されても作る。被災地への強い思いやりと職人魂を感じました。

* この号は6年生が募金活動をしている週に出す準備をしていましたが、できなくなりました。残念。